

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 28 年 9 月 10 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3475000018		
法人名	有限会社 ヒサオカ		
事業所名	グループホーム いこいの里		
所在地	広島県江田島市江田島町中央1丁目20番3号 (電話) 0823-42-5689		
自己評価作成日	平成28年8月10日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3475000018-00&amp;PrefCd=34&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3475000018-00&amp;PrefCd=34&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成28年9月9日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<p>その人その人の性格、状態を把握し、その時々のおいを大切にし、できる限りそのおいに応えられるようにし、穏やかに暮らせるように支援しています。その為に利用者様の声にしっかり耳を傾け、そのおいをくみ取れるようにしています。認知症予防と残存機能維持の為に、過剰な介護は行わないようにして、出来る事を見極めるようにしています。</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>主要道路から離れた山間部のなかで、静かな環境と四季を感じる場所である。保育所や小学校、ボランティア団体が毎年慰問に訪れ、利用者との交流が図られている。また、地元の催し物（運動会、盆踊り、花火大会など）への参加を通して、地域との交流をしている。食事は3食手作りとし、当グループホームの畑で採れた野菜等を食事に生かすこともあり、利用者には好評である。また、なかでも排泄支援には、力を入れており、自然排便を促すように個々の排泄パターンを把握し、トイレに座ることを基本としたケアに取り組んでいる。職員は利用者寄り添いながら、利用者個々の気持ちを汲み取り、希望に応じた支援をされている。今後は、レクリエーションや散歩などを増やす取り組みを行い、利用者の活動を増やしていきたいと考えている。利用者の表情からも、家庭的で暖かみのあるサービスを提供されているのが伺えた。</p>
--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	施設理念とは別に、職員で職員理念を決め、それを三か条に要約し（①個性を大切に ②人に思いやりを ③愛のある介護を）朝、夕の申し送り時に唱和して、職員全員で共有して実践に繋げている。	施設理念や職員理念、事業所としての方針がある。それらを要約し、『三ヶ条（①個性を大切に②人に思いやりを③愛のある介護を）』を念頭に置き、理念の達成に向けてサービス方針を共有している。また、職員の個人目標を設定することにより、理念に関する意識が維持・向上し、実践に繋げるようにしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	運営推進会議を通じて、地域の行事への招待を頂いたり、地域のボランティア、地元の小学校、保育所は、定期的に訪問していただき交流している。	山間部にあり、地域住民との関わりが難しい状況であるが、地元保育所、小学校、ボランティア団体が適宜訪問され、利用者と交流を行っている。地域の催し物（運動会、盆踊り、花火大会など）への参加を通して、地域と交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議を通じて、どのような地域貢献ができるか、助言を頂き、検討している。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議では、施設の状況、利用者の状態、行事報告を行い、家族、市職員、市議会議員、地域の方などから意見等を聞き、サービス向上に活かせるように努力している。	近くの公民館を借用して、同系列のグループホームと合同で開催している。内容は、施設状況・行事報告・意見交換など行っている。参加者も月1回程度は、ホームを訪れるていることから、現状をよく把握されている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	市職員とは、日頃から連絡を取るようにし、疑問点が生じた時にも、相談、助言を頂き、協力関係を築くように努めている。	市担当者とは、電話や直接出向くなどして、グループホームでのケアサービスの状況を報告するなか、協力関係を築くように努めている。今後、社会福祉協議会で開催される「かいごカフェ」への参加を検討している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>施設の敷地は狭く、坂道に面している為、事故防止のためにも玄関は施錠している。身体拘束は行っていない。転倒事故の可能性が大きい利用者様もおられるが、身体拘束は行わず、見守り強化と軽介助で対応している。職員全員でのミーティングで話し合い、取り組んでいます</p>	<p>坂道に面した立地により、事故防止として玄関は施錠し、危険と思われる階段には、ゲートを設置している。転倒の危険性が高い方には、ベッド横にマットを敷くなどによるリスクの回避に努めていた。職員ミーティングや研修を行い、職員は正しく理解し、身体拘束を行わないケアが当たり前という認識となっている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>施設内のミーティングで虐待防止について話し合いを行い、身体的虐待、言葉による虐待防止に努めています。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>自立支援事業に関しては日頃より学び、ミーティングで話し合い、成年後見制度に関してもミーティングで話し合い、社会福祉協議会等と協力して、支援できるようにしている</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時に重要事項説明書と契約書の説明を行い、不安や疑問点に対して、納得するまで説明を行っている。解約に関しても、契約時に説明を行っている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>利用者の意見は日常生活の中で聴き、家族の意見は、面会時に直接聴き取るようにしている。それらはミーティングで話し合い、また運営推進会議でも意見を聴き、出来るだけ運営に反映させている。</p>	<p>利用者の意見は日々の関わりから汲み取り、また、家族面会時などに、職員からホームでの状況を報告し、生の声を聴くように努力されている。利用者や家族からの要望などは、「申し送りノート、全体日誌」に記録整備され、日々のケアに生かし、運営に反映させている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>代表者や管理者は、職員の意見を日頃の勤務の中で聴いたり、ミーティングで出た、意見や提案は全員で話し合い、出来るだけ反映するように努めている。</p>	<p>管理者は、職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握されている。月1回のミーティングや日々の申し送り、必要に応じてその都度話し合いをしている。話し合いの場以外でのコミュニケーションを大切に、意見を聞く機会を設けている。</p>	<p>今後の取り組みとして、業務改善・職場環境の充実・利用者へのサービスの質の向上に向けて、職員と一対一で面談をし、職員個々の意見や要望をしっかりと聞き取るように努め、魅力ある職場づくりを目指すことを望みます。</p>
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>管理者は職員と同じ勤務を行い、勤務状態や職員の努力を把握し、各自が一年間の自己目標に沿って努力し、職員の勤務条件、希望等には、出来る限り沿うように努めている。又、代表者には、適宜に報告を行っている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>管理者は職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、各自に合った役割分担を行っている。研修は本人の希望も聞き受講している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>管理者や職員は地域で行われる勉強会や研修に出来るだけ参加し、サービスの質の向上に努めている。又、今後、社会福祉協議会で開催される、かいごカフェの参加も検討していきたい。</p>		
さ					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>サービス利用開始前の事前面接で、本人、家族の要望を聴き、十分な説明を行い、出来る事は要望に応えるように努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>事前面接と利用開始時に、家族、本人からの要望を聴き、十分な説明を行い、信頼関係を築けるように努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>事前面接と利用開始時に、いこいの里での支援を説明し、利用時の本人の様子を観察して、必要な支援を見極めるように努めている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>日頃の会話の中で、いろいろな助言を頂いたり、料理の作り方を教えていただいたりしている。介護を押し付けるのではなく、対等な立場の人として対応するようにしている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>面会に来られた時に、近況を報告し、支援の方法もご家族から助言を頂いて、共に支えていく関係を築いている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>家族と一緒に自宅に帰宅されたり、近所の方や友人の方が面会に来られている。</p>	<p>家族の協力を頂き、昼食や散歩、ドライブなど、個人で外出される方もおられる。友人・知人などの訪問も見られ、今まで慣れ親しんだ人と関わることにより、利用者の表情が明るくなってきている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士が良好な関係の時には、見守り、トラブルになった時には、職員が仲裁をし、利用者同士の関係で悩んでいるときは、お互いの話を聞き、解決出来るようにし、共に支えあえるような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	長期入院で退所した場合は、病院を見舞って、家族や病院より経過を聞き、退院の際にはグループホームで対応が出来る事は、支援している。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用開始前に、本人、家族から希望を聴き、利用後には本人の思いを少しずつ引き出し、希望に沿うように努めている。	事前面接は可能な限り自宅で行い、家族より生活歴・生活環境を聴いている。日々の関わりのなかで、本人の意向の把握に努めている。職員は利用者に寄り添いながら支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	事前面接は可能な限り自宅で行い、本人、家族より生活歴、生活環境を聴き、ケアマネジャーや病院の相談員からも情報を得て、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々様子観察を行い、心身状態、残存能力、日々の変化等の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>本人、家族の要望を基に、利用後の本人の様子を観察し、職員ミーティングで話し合い、介護計画を作成している。又毎月のモニタリングと職員の話し合いで、介護無計画を6ヶ月ごとに見直している。状態の変化が著しい時は、その都度、見直しを行っている。</p>	<p>状態をより把握するため、毎月、担当者がモニタリングを実施している。ホームでの暮らしが落ち着いて生活できるように、本人の生きがい、役割づくりとなるような内容となっている。再計画の際には、職員ミーティングで事前に検討した上で、現状に即した介護計画を作成している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>個人日誌、全体日誌に、日々の様子、介護計画の長期目的、短期目的の可否を記入し、モニタリングや介護計画の見直しに役立てている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>一人ひとりの状態の変化や、本人、家族のニーズに対して、出来る限り対応するように取り組んでいる。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>地元の小学生、保育所の園児、ボランティア団体が毎年慰問に来て下さっている。又地元の盆踊り、花火大会にも毎年参加しており、楽しんで頂けるように支援している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>協力医だけでなく、本人、家族の希望があれば、他の医療機関に主治医をお願いしている。通常は往診で対応し、緊急時は職員が付き添い、受診している。定期受診は家族をお願いしている。又歯科は地域の歯科医が往診に来ている。</p>	<p>今までの病状などのこともあり、利用時に相談しながら、かかりつけ医を決めている。定期的な通院は、家族の付き添いをお願いし、緊急時の場合については、職員付き添いのもと受診している。協力医の往診体制や看護職員の配置により、適切な医療が受けられる体制が整っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>介護職員は日常の関わりの中での状態の変化、疑問点を、職場内の看護職員に相談している。又主治医にも相談し、必要な場合は受診している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院した際は、担当医やソーシャルワーカー、担当看護師と連絡を取り、情報交換を行っている。面会に行き、容態等を観察し、退院後の支援に役立てるようにしている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>当施設では医療行為が出来ない事を、契約時に説明している。重度化した場合や終末期のあり方については、家族、主治医と話し合い、方針を決めている。</p>	<p>医療行為が出来ないことを契約時に説明している。看取りの経験はあるが、医療経験のある職員が常時勤務している訳ではないため、重度化や終末期には、主治医に意見を聞き、家族と検討を行い、グループホームとして、最大限かつ可能な範囲で対応している。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>利用者の急変時や事故発生時の対応は、職員ミーティングで話し合い、又、消防署の救護訓練を受けるようにしている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>定期的に避難訓練を行い、全職員が身に付けるようにしている。また、近隣にも依頼しているが、参加頂けていないので、今後、協力体制を築けるように努めている。</p>	<p>定期的な訓練や消防署の協力を得て、防災訓練を実施している。山間部であり、地域住民との連携が難しい状況を踏まえ、今後は、同系列のグループホームや運営推進会議メンバーとの協力関係を築けるように、準備されていた。</p>	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライド、プライバシーを損ねない声掛けを行うと共に、共同生活において、それぞれの性格に応じた対応をしている。	利用者一人ひとりを尊重し、受容、共感、傾聴の姿勢を大切にしている。各居室の表札は、花の名前（たんぽぽ、ダリア、ユリなど）を使用していた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	本人からの希望を聴いたり、会話の中から、思いや希望をくみ取っている。なるべく自己決定できるように、支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	本人の希望を尊重し、常に耳を傾ける姿勢を持って、柔軟に対応している。その日のスケジュールも、本人の希望を聴くようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	洋服は本人が選んで着替えている。2ヶ月毎に美容院が来られるので、カット、染、パーマは、本人の希望で行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	外注食の為、メニューは決まっているが、簡単な調理、盛り付けなどを行ってもらっている。利用者の食べたいものは時々、皆で作っている。	食事は3食手作りとし、当グループホームの畑で採れた野菜などを、食事に生かすこともあり、利用者には好評である。食材の調達は、外注食で対応のため、調理時間の短縮となり、その時間を有効活用し、なるべく利用者に寄り添う時間を作っている。利用者の能力に応じて、食事の準備や片付けなどをして頂いている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>外注食の為、カロリー計算はされている。水分量は毎日記録を取ったり、少ない時は声かけを行って、摂取してもらっている。ジュースや好きな飲み物を摂取してもらったりしている。食事制限のある利用者には、別のメニューを作っている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>夕食後に口腔ケアを行っている。又、毎食前にうがいをおこなって、口腔の清潔を保っている。歯磨きは、基本的に本人が行っている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排泄チェック表に記入し、排泄のパターンを把握し、本人からの訴えがない場合は、職員が声かけを行い、失敗がないように支援している。排泄の訴えがあれば、直ぐに対応している。</p>	<p>トイレに座ることを基本としたケアに取り組んでいる。自然排便を促すように、個々の排泄チェック表を毎日確認し、排泄パターンを把握している。夜間、必要な方はポータブルトイレを設置することもある。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>毎日、排泄チェック表を確認し、排便の有無を確認している。水分量を増やしたり、毎日、朝と15時に体操を行っている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>週2～3日の入浴日を決めている。本人の気分で入浴を拒否されたら、午後にしたたり、翌日に入浴してもらっている。</p>	<p>週2～3回の入浴をして頂いている。午前の時間帯（10：00～12：00）としているが、入浴拒否の対応として、午後への変更または、次の曜日に入浴して頂くなど、柔軟な対応による支援をしている。1対1の介護を徹底し、快適な入浴となるように支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。</p>	一人ひとりの生活習慣や希望に より、日中はリビングや居室で自 由に過ごされている。夜間は居室 の電気の明るさを好みに合わせ て、眠りやすくしている。又、居 室に閉じこもらないで、他の方と 関わりが持てるように支援して いる。		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目 的や副作用、用法や用量について 理解しており、服薬の支援と症 状の変化の確認に努めている。</p>	一人ひとりが使用している薬の目 的、副作用、用法は、薬の説明書 によって把握している。症状の変 化は日誌に記入し、全員で共有 している。又、薬の誤配、誤飲防 止の為に、3重にチェックして いる。		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生活 歴や力を活かした役割、嗜好品、 楽しみごと、気分転換等の支援を している。</p>	一人ひとりの残存能力に応じて、 本人の気持ちに応じて、役割が自 然に決まっており、日々、気持ち 良く行っている。レクリエーション や外出等で、気分転換を図って もらえるように支援している。		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう支 援に努めている。また、普段は行 けないような場所でも、本人の希 望を把握し、家族や地域の人々と 協力しながら出かけられるよう に支援している。</p>	希望される利用者は、毎月、買 い物支援を行っている。気候の良 い時期は、散歩に行っている。い こいの里の畑で収穫物がある時期 は、毎日、収穫に畑に行かれて います。	家族の協力を得て、定期的に外 出される方もおられる。季節毎 の外出行事や地元の催し物（運 動会、盆踊り、花火大会など）に 参加している。外出を通して、 地域の皆様との交流が図れるよ う、機会づくりに努めている。	坂道に面した立地により、平坦な 場所が少ないため、日々の散歩が 難しい状況である。外出すること は、本人にとって気分転換にも繋 がるため、1階部分から出入り可 能な場所の活用や、職員間等で アイデアを出し合い、少しでも外 気に触れる機会づくりを増やす 取り組みを望みます。
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの 大切さを理解しており、一人ひと りの希望や力に応じて、お金の 所持したり使えるように支援して いる。</p>	認知症の軽い利用者は現金を持 たれており、通販で買い物をさ れている。家族が紛失しても良い と了解されている方も持たれて いる。現金の置き場所が解らな くなる方は、現金は持たれてい ません。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>携帯電話を持たれている方は、自由に家族や知人に電話を掛けておられる。また家族に電話を掛けたいと訴えがあれば、事務所から掛けている。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>リビングにソファを置き、自由にテレビを見られるようにしている。季節感を出すために、リビングに手作りカレンダーを貼り、近所の方に頂いた生花を飾る時もある。</p>	<p>主要道路から離れており、静かな環境である。利用者が毎月、手作りカレンダーを作成され、リビングに掲示されていた。適所にソファなどを置き、ゆっくりと過ごせる環境を整えている。利用者の大半は、リビングで過ごすことが多く、一人ひとりが、心休まる様子で安心して生活されていた。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>一人になりたい時は、居室で過ごされています。気の合った方とは、廊下の椅子で談笑されたりしています。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>本人が自宅で使われていた家具や身の回りの品を持ってきてもらって、自宅と近い雰囲気でも過ごせるようにしている。</p>	<p>ベッドやエアコンは当グループホームで用意されている。使い慣れた寝具や家具など、生活必需品を自由に持ち込まれている。本人が安心して過ごせる場所となるよう、本人や家族と相談しながら工夫している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>日常生活の中で、出来ること、出来ないことを職員がしっかり把握して、自立出来るように支援している。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームいこいの里

作成日 平成28年10月5日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	49	戸外へ徒歩での散歩が難しい。	日光浴、外気浴をする機会を増やす。	天気の良い日には、裏口の側に有る平地のスペースにて、外気浴をする機会を増やすと共に、畑の野菜を収穫する機会を増やす。	3ヶ月
2	36	入所者様が不穏になった時にも、人権を尊重した対応が出来るように職員全員に徹底する。	どんな時でも、入所者様の人権を尊重した対応が、職員全員で出来るようにする。	外部研修に参加し、施設内ミーティングで発表して、問題点を見つけ、全員で共有する。	1年
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。